

バングラデシュの女性：無償労働で陰ながら支える忘れられた英雄たち Ms. Doulot Mala (バングラデシュ)

バングラデシュにおける女性のリーダーシップは、世界から称賛を得ています。首相をはじめ野党党首、国会議長と、国内のトップの座に女性が名を連ねています。また、バングラデシュの女性は中小企業の起業家としても成功を収めています。それでもやはり、この国の典型的な社会風潮とも言える文化的なスティグマによって、女性に対する認識が不足しています。特にインフォーマル・セクターにおける女性の経済貢献は、正當に評価されていないのが現状です。

バングラデシュの女性の大半は、無償で働いています。しかし、彼女たちによる家族や社会への献身が十分に認められることはなく、その地位や尊厳が損なわれる危機に直面しているのです。この状況を受け、最近では女性が果たしている役割に対する認識を高めようと、経済専門家、女性、メディア活動家が声を上げ始めています。また、人々の意識改革を目指し、「尊厳を通じた平等」と銘打った全国キャンペーンを女性擁護団体が展開しています。

バングラデシュにおける米の生産は、水田耕作からマーケティングに至るまで23の工程から成りますが、そのうちの17の工程を農村の女性が担っています。しかしながら、彼女たちは食糧安全保障、教育、社会保障、育児などに大きく貢献しているにもかかわらず、経済的に正當な評価を受けられていないのが現状です。

同じ労働の対価として女性に支払われる賃金は男性の賃金よりも低く、男女間の賃金差別の率は農村地域や未開発地域ほど高くなっています。女性による貢献が過小評価される傾向は世界共通であるとはいえ、それが特に顕著に見られるのは、バングラデシュのような後発開発途上国(LDC)においてです。ユニセフによると、女性は自らの時間の3分の2を食糧生産に費やしているにもかかわらず、全世界における女性の所得合計は全体の10%に過ぎません。

そのため、従来のGDP推計方法の枠組の対象外とされている女性の無償労働を再評価し、女性による経済的貢献として認めるべきなのです。経済活動の枠から外されている女性の貢献を社会の中で可視化するためには、フォーマルセクターにおいて賃金をベースとした就労機会を増やすことが鍵となります。そのためには政策改革、女性に対する社会的認識の変革に加え、従来の統計方法の修正が求められます。

民間のシンクタンク「政策対話センター(Centre for Policy Dialogue: CPD)」と「みんなのための財団(Manusher Jonno Foundation: MJF)」が共同で実施した実証調査「バングラデシュ経済に対する女性の貢献の貨幣評価」では、バングラデシュの女性による無償家事労働の貨幣評価は2013~2014年度のGDPの7.6%もしくは8.7%に相当すると試算されています。この調査では、これまで対象範囲外とされてきた女性による実質的な労働の評価を行い、女性が実際にどれくらい社会に貢献しているかについて解明を試みてい

ます。その結果として、この調査は女性の活動を GDP に算入する包括的手法を提案しています。また、女性に対する賃金差別を撤廃し、女性による正規雇用への従事を推進することにより、その労働を正当に評価できるようになるのです。その実現に向け、NGO、女性団体、メディア、民間セクターなどが声を上げています。

バングラデシュの女性たちは自らの、そして周囲の人々の運命を変えていくために、何十万ものイニシアティブを精力的に打ち出しており、女性が参加することでこの国の経済の流れの中に社会的な転換をもたらそうとしています。そして、マイクロクレジットと既製服産業の2つの分野において何百万人という若い女性や母親たちが成功を収め、目覚ましい功績をあげています。また、これとは別に、農作業や自宅での家族の世話といった労働を通じ、縁の下の力持ちとしての役割を何世代にもわたって果たしてきたのです

農村地域から成長を遂げている都市中心部に至るまで、バングラデシュのあらゆる所で女性たちは勇気を奮い起こして過去の束縛を打ち破り、外に出て労働力に加わっています。実際、バングラデシュの女性たちの台頭は、かつては後ろ向きだった社会にこの20～30年間で変化をもたらしており、それは革命と呼ぶにふさわしいものです。

今日では、女性はあらゆる所で能力を発揮しており、その活躍の場はブティックの経営からライト・エンジニアリングまで、そして地場企業から多国籍企業に至るまで、多岐にわたります。それでも、女性たちは自らの収入を自由に使うことはできません。自分が働いて得た収入を使う際、家族に相談しなければならない女性が40%にも上るという調査結果があります。また、多くの女性が外で働くことに前向きではないことも事実です。なぜなら家の雑用や育児、料理、洗濯などの家事をこなさないといけないからです。

このような計算も測定もされていない労働を対象として認め、バングラデシュの GDP の算出システムに加える必要があります。政策立案者たちは、女性が家事を通じて社会に貢献していることを理解し、認めるべきなのです。

女性が威厳を持ち、かつ正当に認められる形で家事と外での職業を両立できるようにするためには、女性の識字率を向上させることが大きな一歩となるかもしれません。バングラデシュにおいて女性が経済的・社会的権利を確立するためには、発想の転換、社会保障制度の改革、家族によるサポートの強化、女性労働者の能力の評価などを確実に進めていかなければならないのです。